

令和7年9月3日

農作物生育・技術情報8号

日高農業改良普及センター日高西部支所

JAびらとり JA門別町

1 水 稲 ●生育状況調査：中苗（9月1日現在 普及センター調査ほ）

品種	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	平年との遅速 (日)	黄化率 ()は平年値
ななつぼし	R7年	76.4	16.0	561	+10	99% (48.7%)
	平年値	74.3	16.6	508		
	差	2.1	-0.6	53		
ゆめぴりか	R7年	70.3	18.0	547	+9	99% (49.5%)
	平年値	72.2	16.6	586		
	差	-1.9	1.4	-39		

- (1) 生育は平年より早く推移しています。
- (2) 刈り取り判定を実施し、適期刈取に努めましょう。
- (3) 倒伏しているほ場が散見されます。他の稲と一緒に収穫すると品質低下を招くおそれがあるため、別刈りを行いましょう。水が滞水している、あるいは土壌水分の高いほ場は速やかに溝切り等を行い、土壌表面を乾燥させましょう。

2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト	・ 裂果、つやなし果、空洞果、黄変果が見られる ・ すすかび病、灰色かび病、トマトキバガが発生している	・ 高温時は遮光を実施する ・ かん水量を減らし、急激な吸水を防ぐ ・ 下葉・老化葉の摘葉を行う ・ 害虫・病害の早期防除を行う
きゅうり	・ 収穫中 ・ 親づるを摘心済み	・ 病害防除は予防を中心に行い、発生が確認されたら治療効果のある薬剤で防除する ・ 害虫が発生した場合は早期防除に努める
ハウス軟白ねぎ	・ 4～5月定植作型を収穫中 ・ アザミウマ類、ハモグリバエ類、が見られる	・ 病害虫が多発したハウスは計画的に土壌消毒を行う
アスパラガス (ハウス立茎)	・ 斑点病の発生が見られる ・ 一部のほ場で穂先の曲がりや頭部の開きが見られる	・ 斑点病の防除を行う ・ 追肥は9月中旬を最終施用とし、収穫終了後の過度な生育を防止する
いちご	・ 収穫中	・ 弱小腋芽や不要な花房・花蕾を除去し草勢低下を防ぐ ・ 培土の過乾燥や過湿に注意する

3 畑 作

(1) 秋まき小麦：ゆめちから【 は種に向けて 】

- ・ pHが低いほ場では出芽が劣るため、分析結果を基にpH5.5～6.0に矯正しましょう。
- ・ 出芽率確保のため適正な碎土率(直径2cm以下の土塊70%を目安)とし、また深まきや出芽ムラを防ぐため、大型ドリルでは種する際は、は種前鎮圧を実施しましょう。
- ・ 目標とする越冬前の生育は、葉数5～6枚、茎数1,300～1,500本/㎡です。は種量は180～200粒/㎡(例：千粒重41.0gの場合→7.4～8.2kg/10a)とし、生育を確保するためには種時期に留意しましょう。

・ 秋まき小麦でのイネ科雑草は秋の除草剤処理でしか減らすことができません！は種後の除草剤処理は、必ず実施してください。

	6.0葉(590℃)を 確保できる日	5.0葉(480℃)を 確保できる日
過去5年の 平均気温から	9月21日	～ 9月28日
* 日高門別、日高のアメダスを平均し算出		

(2) ばれいしょ【 収穫時の留意点 】

- ・ 茎葉枯凋後、土中に長く置くと黒あざ病菌核が付着し商品価値を低下させます。茎葉処理2週間後を目安に収穫を開始しましょう。
- ・ 収穫作業は気温10℃以上の暖かい日に行い、収穫後は涼しいところに貯蔵し、いもの温度を下げましょう。

4 畜 産

●牧草生育状況（9月1日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況			備 考
	項目	R7年	平 年	
牧草(2番草)	草丈(cm)	68.4	72.7	・ 2番草の草丈はやや短い ・ 収穫作業はやや早い

- ①最終番草刈り取り後の草地には、堆肥やスラリー等の有機物を積極的に施用して、肥料コストの低減を図りましょう。
- ②高温、少雨の影響を受けた草地は、刈取り後の再生状況を確認しましょう。再生せず枯死が疑われる場合は、追播や更新を検討しましょう。

●飼料用とうもろこし生育状況（9月1日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況			生育期節	平年比(日)	備 考
	項目	R7年	平 年			
飼料用 とうもろこし	葉 数(枚) 稈 長(cm)	19.8 326.1	18.8 290.8	糊熟 90%	+8	・ 高温により、登熟は早く進んでいる

※収穫適期は、黄熟期(平年:9月16日)以降です。9月1日現在の生育は平年より8日ほど早く推移していますが、地域間差や、は種時期等によるほ場間差も大きいので、必ずほ場で熟度を確認して、適期収穫を心がけましょう。

5 農作業安全対策

余裕を持った作業計画で、事故防止に努めましょう。作業予定を事前に確認しあい、適正な労働配分を考慮しましょう。